

紺碧沖繩

第 57 号

編集・発行



社会福祉法人
沖縄県社会福祉事業団

〒903-0804 那覇市首里石嶺町4丁目373番地1

TEL 098-884-3173(代)

FAX 098-882-5688

電子メールアドレス : o.fukusi@okinawa-j.jp ホームページ : <http://www.okinawa-j.jp/>



臨床美術 (クリニカルアート)
『野菜の量感画』

重症心身障害児(者)通園事業 沖縄療育園
ピノキオ利用者作品

役員・評議員による よみたん救護園の視察

よみたん救護園は、昭和52年4月の事業開始から35年が経過していることから全面改築を計画しており、理事会及び評議員会において「よみたん救護園施設整備事業」についての審議と併せて施設の視察を実施しました。視察では建物全体にコンクリートの剥離が進行し雨漏り等も発生している事、車椅子利用者の方が増加傾向に有るが施設内に段差が多くこれまで緊急的に段差解消の修繕等を行ってきた事、居室も多床室を解消する必要がある事などが確認され、理事会・評議員会では施設を利用される方へ安心・安全・快適な生活を提供するためには、全面改築が必要との決定を致しました。当日は、隣接する都屋の里の視察も行われ施設が抱える課題等についての説明が行われました。



経営説明会

事務局 事務部長 石川俊雄

全職員の経営意識の高揚を図り一層の効率的経営を目指すため、当法

人では常務理事及び事務局職員が各施設に出向き全職員を対象とした「経営説明会」を年1回実施しています。説明会では常務理事が福祉を取り巻く制度、政策等、事務局職員が各施設及び法人全体の財務状況、経営計画の進捗状況、サービス提供上の課題等について説明を行い、今後、各施設で取り組むべき事項等を明確にしています。今年度はこれまで以上に「職員の意見・提案等」を直接聞き取る事に重点をおき実施しています。



全事協九プロ職員研修会開催

事務局 企画課 宮城貴子

「明るく・楽しく・夢のある事業団を目指して」をテーマに、全国社会福祉事業団協議会九州ブロック職員研修会を9月15日に那覇市で開催したところ104人の参加がありました。

(県外11事業団30人、県内当法人74人) 研修会の開始にあたっては、九州各県の事業団の経営形態として自主経営の事業団、指定管理の事業団、事業種別としても児童、障害、高齢者等様々な形態となっていることを考慮し、各事業団共通の課題である、次の

2項目について2分科会に分かれて討議を行いました。

①経営分析について、各事業団から事前に提出された資料を基に、川原経営総合センター・主任コンサルタント新藤建氏による経営分析の解説、指標算出方法、経営分析活用、経営成果の分析について行われました。

②介護事故防止について、インターリスク総研・主席コンサルタント・山田滋氏より事例を中心とした実践的な内容の講義及び参加者の討議が行われました。

第1分科会、第2分科会ともに、経営形態や施設・事業所の種別を超えた共通した重要な課題であり、事業団の経営、利用者サービスの向上には欠かせない視点での研修会であったと思います。

九州各事業団との交流の中では、貴重な情報交換を行うことができ、一層連携を深める機会となりました。



全国社会福祉事業団大会に参加して

事務局 企画課長 平良里子

10月初旬、今年の全国社会福祉事業団大会は北海道で開催されました。

沖繩からの参加で、北海道へはまるで未知の世界に足を踏み入れるような気持ちで向かいました。

全国から約200人余の参加があり、初日は、式典、実践報告、基調講演、交流会がありました。2日目は、分科会に分かれ、私は、第1分科会「社会福祉施設における経営のあり方について」に参加しました。

今大会は、全体をとおして、東日本大震災を教訓とし、特に福祉施設の運営にあたっては、避難することからもう一步先の「事業の継続」という社会的使命を担っていることを痛感しました。

第1分科会の「東日本大震災による放射能汚染地域からの緊急避難」の報告や「災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーボード」の活動報告がありました。日頃の防災訓練の重要性、リスクが生じた際の瞬時の判断などは、日頃の訓練の積み重ねで培われていくものだということを改めて感じました。

今大会に参加し、経営形態は様々な社会福祉事業団ではありますが、公益性を体現する先駆的な役割を担っていく使命を感じました。これからさらさら利用者へのサービスの向上のために尽力していきたいと思えました。



特別養護老人ホームにおける たんの吸引等の実施に向けて

特別養護老人ホームにおけるたんの吸引等の取扱いについて、沖縄県では今年5月に県より各施設に通知がありました。その通知を受けて、当法人の4厚生園では制度についての勉強会を7月に行い、施設での課題や役割等の確認を行いました。

各施設において、介護職員のとんの吸引等が安全に実施できるよう9月から研修の取り組みを開始しました。実際の取り組みについて八重山厚生園の状況を紹介します。

八重山厚生園の取組

養護・特別養護老人ホーム 八重山厚生園
生活支援課長 砂川繁信（なごい）

特別養護老人ホームにおけるたんの吸引等の取扱い等について八重山厚生園でも看護職員・介護職員が連携してたんの吸引ができる体制づくりに向け取り組んでいます。



介護職員によるたんの吸引実施のためには、指導看護師による介護職員への14時間研修が必須条件となるため、6月の沖縄県老協主催指導看護師養成研修に2名の看護師を派遣し資格取得させました。その後、対策委員会の立ち上げや医師の協力体制の確保、介護職員への説明

等に取り組み、9月中には全職員及び嘱託医師の理解と協力を得る事が出来ました。

10月から研修をスタートするに当たり、業務多忙の中、支障なく研修を実施できるように調整した結果、介護職員を数名のグループに分け、毎月1グループを1回目8時間（勤務時間内）・2回目6時間（時間外勤務）、として第2・第3水曜日を研修日と決め24年2月までに終了するように研修計画を立てました。

研修実施に当たってはテキストに基づく研修だけでは時間が余ってしまうため、指導看護職員と支援課長が連携し、情報を集め、参考資料を取り寄せる等して資料不足の解消に務めながら研修を進めてきました。最近ではインターネット上に豊富な資料が載るように



用によりスムーズに研修が進められるようになりました。
又、研修当初は、戸惑いや不安が強かった看護職員も回を重ねることに指導要点をつかむなど上手に研修が進められるようになり、12月末で半数以上の介護職員

名護厚生園における疑似ユニットへの取組み

養護・特別養護老人ホーム 名護厚生園
生活支援課長 比嘉克也（ひが）

近年、「施設から住まいへ」を模索する動きが始まり、認知症高齢者グループホームが注目されるようになりました。このような動きの一つが、施設における「ユニットケア」で、利用者介護の対象として見るのではなく、一人の生活者としてその人がその人らしく生活し続けることを支援するための「個別ケア」の充実システムと捉えることができます。

そこで、平成23年4月から、既存の設備や現在の介護職員数で、いかに利用者へのサービースが集団ケアから個別ケアに近づけられるか検討しました。そして、これまでの介護を4グループに細分化することに



が研修を修了する予定となっております。今後も計画に沿って研修を進め、利用者の同意取得などの実施要件を整備しつつ県への登録事務等を済ませ、法令に沿ったたんの吸引等の実施が円滑にできるように取り組んでいきたいと思

利用者一人一人のニーズが把握し易く、「個別ケア」の充実に繋がると考えました。しかし、介護職員の確保が困難なこともあり、3グループに分けて取り組むこととし、完全実施には到りませんでした。



現在は、職員の確保もでき、12月から職員一同「ユニットケア」を行う目的を再確認し、4グループ化の取組をスタートしました。具体的な取組として、各グループでの担当制の明確化、他職種（看護師、介護支援専門員、栄養士等）の連携を更に強化し、利用者のサービスの向上を図ります。3ヶ月間を試行期間とし、評価・検討をしたうえで平成24年度より看護師の増員もを行い、「個別ケア」の充実を目指していきたいと思

新しい建物での利用者の様子

障害者支援施設及び知的障害児施設
あけぼの学園
管理課長 濱川洋光 はまがわ ひろみつ

37年前市街地から、2キロ程離れた自然豊かな高台、袖山で漲水・あけぼの学園の事業が開始されました。その頃の職員の話によると「毎日が開拓の精神で朝からクワやつるはし等をもって環境整備に取り組んだものだ」と聞きました。

それから37年経過し、施設の老朽化が著しい中、平成23年3月から増改築工事が開始されました。地域交流の場として活躍した集団指導棟、利用者、職員一緒になって作品創りをした陶芸室、不便を感じながら狭い居住の場で役割分担をし、協力しながら生活してきた思い出いっぱいのあるあけぼの寮の解体が今年の3月末に開始されました。



音をたてて取り壊されていく建物を目の当たりにすると、何ともいえない寂しい思いが込みあげてきました。ある日、いつもより早

めに出勤した時、完成間近な建物から朝陽を背に受け、あけぼの学園新施設がとももダイナミックで自然美と利用者の夢・希望がここから始まるのかな光景を見ました。

平成23年11月1日、あけぼの学園部の増改築工事も完了し、新施設で鍵引き渡し式が行われ、早速利用者、職員全員で引越作業を行い、5日には新施設へ移ることができました。玄関に入るとエントランスの広い空間が近代的な息吹を感じさせます。居室はプライバシーの確保ができる造りとなっており、また風呂場、洗面所、トイレ、洗濯場等も使い勝手良く整備されています。障害者自立支援法に基づいて、日中と夜間の居場所を完全に分けることが出来、日中活動と生活支援のさらなる充実に繋げる事ができます。

この恵まれた素晴らしい新居住地を拠点に「一人ひとりがもっている能力を生かして、一人ひとりに最適な支援を提供」という基本理念のもとスタッフ一同頑張つて行きたいと思えます。



就労継続支援B型事業について

あけぼの学園 就労継続支援B型事業所
作業指導員 下地栄市 しもじ えいち

今年4月からあけぼの学園は、就労継続支援B型事業を開始しました。利用者は現在12名で、作業内容は宮古島市からの委託作業である港の清掃、宮古厚生園の環境整備及び窓拭き作業を主体として取り組んでいます。

開始当初は一つの作業を行うにうまくいかず、作業がなかなか捗らない日もありましたが、経験を積むことで、お互いで役割分担を決めながら積極的に作業に取り組んでいます。

又、11月末には学園西側でビニールハウスが2棟設置されたことから、今後は、野菜や花の苗づくり等、花卉園芸にも力を入れ、島唐辛子・パパイア等の季節にあった農作物を栽培していきま

す。併せて開園記念日には地域の方への即売会も予定し、よりいっそう作業内容も充実させ、就労意欲を高めていきたいです。



リスク診断

養護・特別養護老人ホーム 具志川厚生園
生活支援課長 新里健 しんざと たけし

当園では、介護リスクについて、株式会社インテリクス総研の山田滋先生に建物の危険度チェックや介護技法等の診断をして頂きました。その後、前回と比べ、環境面等が改善された点が多々あると評価されたが、次のステップとして、利用者の自立した主体的な生活を目指した支援の必要性等の課題があげられました。

利用者がゆつたりと過ごせる場所づくり、何に興味をしますか、生活習慣はどうだったのか想像しながら空間づくりをしてはどうか提案があり、施設内の空間を利用してゆつたりと過ごせる場所を造つたところ、自然と利用者が興味を示し、雑誌をみて「この人誰だよ」と利用者同士自然と会話を始め笑顔が見られました。

このことを参考に、これからも利用者がくつろげる空間づくりを大切に、ADLの維持につなげ、施設で安心して生活していただけるよう工夫していきたいと思えます。



療育音楽 のびのび音楽祭開催

救護施設 いしみな救護園
介護員 知念和美
(療育音楽研修会議 幹事)

当事業団の施設では、利用者のストレスを解消して安らぎと明るさを増進させると共に、集団でのコミュニケーション作りやリハビリテーションにつながる活動の一つとして療育音楽を取り入れています。この療育音楽を取り入れている施設が一同に集まり、日頃の活動の成果を発表することにより、利用者及び職員の意欲向上と、施設の親睦を図ることを目的に「のびのび音楽祭」を沖縄療育園集団訓練指導棟にて開催しました。音楽祭を通して、他施設の取り組み方の情報交換や、職員・利用者の懐かしい顔合わせなど様々な交流を楽しみました。

どの施設の利用者からも、「楽しかった」「また来年も元気で参加したい」との声が多く聞かれ、次回への参



講師を招いての練習風景

加意欲と関心を持ってもらえた事は、とても素晴らしい事であり、これも施設の職員の方々が、一生懸命療育音楽に取り組み、利用者と一緒に活動を行っている成果だと思えます。これからも、楽しい中にも機能訓練を取り入れながら、歌や音楽に慣れ親しんで参るような療育音楽を全施設で取り組めたと思えます。



のびのび音楽祭発表風景



のびのび音楽祭表彰式

臨床美術 (クリニカルアート)

重症心身障害児(者)通園事業 沖縄療育園
保育士 田場貴子

通園ピノキオでは、活動の中に「臨床美術、クリニカルアート」を取り入れて行っています。

臨床美術とは、脳科学に基づいて開発された独自のアートカリキュラムに沿って創造的な活動を行うことで、「脳機能の活性化を促す」ことを目的としています。当初は、認知症の方を対象に開発されたカリキュラムでしたが「意欲と潜在能力を引き出す効果」が注目を集め、近年では県内でも高齢者施設の他に、保育園や教育現場など多くの機関で実施されてきています。

ピノキオでは「見て・触れて・感じて」と五感を刺激し、感性に訴えながら個性的な表現を引き出すことを大切に制作に取り組みんでいます。



例えば、県内各地の黒砂糖の味比べをしながらかその味を描く「黒砂糖を描く

う」や、庭で取れたゴーヤーを使って「ゴーヤーの量感画」を描くなど、毎回楽しいカリキュラムをおこなって楽しい時間を過ごしています。

利用者みなさんは、1時間もの長い時間を集中してアートを楽しみ、芸術家顔負けの素晴らしい作品を創作し、制作の最後には「鑑賞会」として、ゆつたりとみんなで作品を鑑賞する時間を設けており、自分の作品を誉めてもらうと、みなさん嬉しそうに笑顔といきいきした表情を浮かべています。

2月には、施設内で作品展示会を行う予定です。ぜひ素敵な作品をご覧になって下さい。



ゴーヤーの量感画

地域交流への取組み

地域に根ざした施設支援を目指して

障害者支援施設 北嶺学園
管理課長 小橋川務

北嶺学園は、地域に根ざした施設を目指し、次の4点を行っています。
① いしみね福祉まつりへの参加。石嶺地域の一大行事である、いしみね福祉まつりへ毎年参加し、盆踊り等の出し物も行いながら、近隣施設の利用者や地域住民との交流を行っています。

② 施設で収穫した農産物の販売。農場で生産した新鮮な農産物を低価格で近隣施設へ訪問販売を行うとともに、施設の裏側で設置している無人販売所にて地域住民へ提供しています。

③ 環境美化への取り組み。昨年より自治会と共同でペットの糞放置の防止として、看板の設置や花の植え付け等、施設北側沿道の環境美化に取り組んでいます。

④ 作品展示即売会の実施。来年の2月には、地域住民を招いて、利用者の作品展示即売会を予定していますが、その中で、健康相談、栄養相談、花卉園芸指導を実施する予定です。

地域交流への取組み

保育園児との交流会

養護・特別養護老人ホーム 具志川厚生園
生活相談員 比嘉理奈

地域の子ども達と触れ合う事で日常生活に変化を持たせる事を目的として、「こころ保育園」園児25名を招いて、エイサー等交流会を持ちました。園児達の可愛らしい踊りを見たり、肩たたき、握手をして触れ合いながら利用者から「可愛いね・有難う」の声が多く聞かれました。普段表情を出すことの少ない利用者は、園児達の踊りに合わせ手拍子を取ったり、一緒に踊ったり、また涙を流される利用者もいました。日頃職員が引き出すことの出来ない様々な表情を見ることが出来ました。利用者

の園児達を見る目がとても優しく、自分のお孫さんと感じているように感じられました。最後に利用者が作った手芸品をプレゼントして交流会は終了しました。



職員の語らい

料理コンテストで優秀賞！

児童養護施設 漲水学園
保育士 荷川取律子



料理好きが高じて、応募した第34回宮古島産業祭り紫芋レシピコンテストにおいて「紫芋餅・宮古味噌あん入り」でアマチュア部門優秀賞を受賞することができました。プロ部門もあり、すばらしい作品ばかりで躊躇しましたが、作品を認めてもらえたことは嬉しく思いました。調理師免許を趣味の一つで取得し、事業団に入ることができ、日常生活・仕事に反映できる事に感謝し、幅広く活動できるように今後色々なことにチャレンジして行きたいと思えます。



援農隊に参加して

障害者支援施設 都屋の里
理学療法士 伊波普献



私は、今、某有機農園にて人手不足を補うため、援農(農業支援ボランティア)に参加しています。大自然の下、援農隊の一員として利他を目的に自らの体を動かし汗を流す事は、貴重な心地よさ



から実に爽快感な気分がさせられます。実際、援農に参加し気付かされた事は、どんな時も今の自分ができることから始め、自分と関わり合いのある方々に喜んでいただけの行動を本気でやればやるほど感動的な出会いと強い絆が生まれる様な気がしました。それはともあれ、自分を活かし他者へ喜びの笑顔を運べたのなら、いつでも嬉しい気持ちになりますよ。

袖振り合うも他生の縁

救護施設 いしみね救護園
出納職員 外間隆史



今年は何かと九州に縁がある。九救協の研修で熊本へ行く機会があり、阿蘇の真和館、北九州の愛の家、ひびき園を施設見学で訪問した。施設長をはじめ、職員の皆さんの快い出迎え、また利用者の笑顔が印象的だった。温かい対応をして頂いた事に感謝すると同時に、私も頑張ろうと活力を貰った。旅行で福岡へ行った際、屋台で相席した人が大阪人で、私の妻も同郷という事もあり話が弾んだ。会計の時「社長ゴチになります♪」と振ると「かまへんかまへん」とホントに御馳走して貰った。いつか恩返ししに行かないと……



さまざまなソフト食

重症心身障害児(者)施設 沖縄療育園
管理栄養士 新垣さゆり

一口にソフト食といっても、やわらか食、嚥下困難食、ゼリー食、ムース食など、その施設の利用者さんにあった様々な形態と呼称があります。ユニバーサルデザインフード等で形態と呼称を統一していく方向もみられますが現状は難しいようです。嚥下障害に対応する食事の基本的な共通認識はありますが、それだけ多様な嚥下障害があるという事でしょう。

八重山厚生園で嚥下対応食に取り組みさせて頂き、沖縄療育園でも嚥下対応食を提供させて頂いています。高齢者の方にお出しする食形態と重症心身障害児・者の方へのそれは同じではありません。

嚥下対応食を作るにあたり、八重



行事食一例

山厚生園でも沖縄療育園でも食堂や病棟で利用者の召し上がり方を観察させて頂いた上で、ひとつの嚥下対応食を作ります。利用者と同じ様な食べ方で、食道の通りを確認しています。よい感じなら、実際に対象の方に召し上がってもらい、様子を見ています。大丈夫なら、調理員へ作り方を実際に見せながら伝授。トロミや硬さがほぼ一定の状態を提供できるまでしばらくかかりますが、徐々に安定。その繰り返しで現在の嚥下対応食を提供させて頂いています。栄養管理は召し上がって頂いた上で成り立ちます。嚥下対応食は利用者の方々の為だけではなく、職員の方々にとりましても心地よく食事介助ができる手助けになればと思います。



刺身の常軟食・つぶし食・ペースト食

今後職員皆さんの協力の下、嚥下対応食に取り組んでいきたいと思っています。

施設長リレーエッセイ

私と野球

養護・特別養護老人ホーム 名護厚生園
園長 宮里 淳



私の野球との出会いは父親の仕事の關係で石垣で過ごした小学生の頃、石垣中学校が県大会で優勝し、鹿児島大会も制覇し、優勝パレードを見て感動してからである。その後、小学5年生に名護に転校し、学校代表で市内の大会で優勝したこともあり中学に入学してすぐ野球部に入部した。

昭和43年の夏、中学2年の時、興南旋風で全国ベスト4進出は、それまで甲子園にあまり興味のなかった自分に感動と衝撃を与え、甲子園出場を意識するようになり、中学でも全島制覇も体験し、そのメンバーがそのまま名護高校に入

学し、本土復帰の昭和47年、春の選抜は復帰記念特別枠、夏の選手権は宮崎との2次予選を突破して出場するが力及ばず1回戦で敗退した。復帰後、沖縄県の高校野球のレベル向上は著しく沖縄尚学の2度の春の選抜をはじめ



1972 夏の球宴 第54回全国高校野球選手権大会 8月11日から10日間 阪神甲子園球場

め、昨年の興南高校の春夏全国制覇は県民に多大な感動を与えたのは記憶に新しい。

私の野球との関わりはその後も続き、大学でプレイングマネージャー、中学、高校のコーチ、監督、少年野球の役員と貴重な体験をさせてもらった。現在も35年続く草野球チームで監督をしている。そのようなことから野球を通して素晴らしい仲間や先輩方と出会い、いろんな事を学ばせてもらった。今でも野球談議をすることが私の唯一の趣味である。今後体力の続く限り野球を通して交流の輪を広げ、野球で培った「チームプレーの大切さ」「基本の大事さ」、「凡事徹底」等の精神を仕事に生かさればと考えています。



施設
だより

ふれあい祭り

重症心身障害児(者)施設 沖繩療育園

児童指導員 小橋川博康



「ふれあいの心 ゆいまーるの輪」をサブテーマに今年も当園を含め4施設が中心となり住民参加型の「ふれあい祭り」が9月23日(金)に当園駐車場で開催されました。当日は天候に恵まれ、当園が出店した「お化け屋敷」等も盛況に終わり、利用者も家族と一緒に踊り、出店で買い物をして秋の一夜を楽しく過ごしていました。又今年3月11日に起きた「東日本大震災」で被災された方々に、各施設が行った出店の売り上げ金の一部を義援金として浦添市社協を通じて福島県に送りました。

ふるさと訪問 (離島編)

救護施設 いしみね救護園

生活指導員 我那覇博明

当園では、諸事情により家族との交流が希薄な利用者を対象に毎年、利用者の出身地を訪問し家族との交流を行っています。

今回は宮古島出身者から帰省したいとの希望があり、日帰りではありませんでしたが、宮古島へのふるさと訪問を実施しました。

親族は快く受け入れてくれ、島内の移動は福祉事務所担当者の協力もあり、スムーズに行う事ができました。

利用者は、3年ぶりの帰省をとても喜び、親族と互いの近況報告を行い、精神的安定も図る事が出来たと思います。

久しぶりの再会に利用者から「みんなに会う事ができて嬉しかったし、元氣そうでよかった。」と笑顔が見られました。

年々、出身地にいる家族が少なくなり、ふるさと訪問を実施できる利用者も少なくなっていますが、楽しみにしている利用者のため、今後も継続出来るように計画していきたいと思えます。



施設
だより

観月会

婦人保護施設 うるま婦人寮

生活指導員 町田宗広

去る10月14日、観月会を行いました。例年、屋外で実施するのですが、今回は母子棟の改築工事の為、作業室で開催しました。当日は、入所者、職員に加え、関係機関の職員の皆様、退所から1年以内の元入所者の皆様の参加があり、久々の再会を喜びました。来賓からの激励や元入所者の近況報告に耳を傾け、パーベキューに舌鼓を打ち、踊りや花火を楽しみむ中で各々が自立に向け手応えを実感した催しとなりました。



秋の夕涼み会

養護特別養護老人ホーム 八重山厚生園

生活相談員 新井克紀

秋の夕涼み会を天候不良のため多目的ホールで開催しました。

午後7時から始まった会は、家族会役員と職員による座開き『鷺の鳥節』で始まり、地域や家族からも色々な余興提供があり、最後まで観客を引き付けました。また、屋台業者による焼き鳥・焼きソバ・三枚肉の煙製等、各種食べ物も大盛況でした。

終了後は、利用者や家族からお礼の言葉を戴き、職員一同達成感と喜びを感じた1日となりました。



施設
だより